

研究力分析における部局支援：データ可視化と利用推進の取り組み

岡崎麻紀子* (okazaki.makiko.7n@kyoto-u.ac.jp)、橋爪寛、池本翔子

京都大学学術研究展開センター (KURA)

P063

概要

各部局が自らの研究力を定量的に把握し効果的な研究戦略を策定することが求められるが、専門人材不足やデータの未整備、知識不足による関係者間のミスマッチやコミュニケーションなど課題も多い。KURAでは部局IRの課題克服のため、ORCIDを使用した研究者の業績追跡システムの整備や、研究力分析のための基盤拡充、IRセミナーを通じた人材育成に努めている。本発表ではこれらの取り組みと成果について紹介し、課題や今後の展望について意見交換を行う。

背景

効果的な研究戦略を策定するため、部局ごとの研究分野特性を理解し、それぞれの強みと弱みを明確化することが重要。部局運営のためのデータ活用が求められているが課題が多い

課題

人材不足

部局によっては評価や業績整理担当の人員を確保できない
担当者は定期的に移動してしまう

リソース制限やデータの質

「部局」レベルでのデータがすぐに使える状態にない
表記揺れや同姓同名などの問題で、精度を高めるのが手間

知識不足

論文指標のことを良く知らない、データがあるか知らない

コミュニケーション不足

効率的な方法を知らない、誰に聞いたらいいかわからない

解決策

① 研究者自身に業績可視化を進めてもらい、それを大学で集約できる仕組みづくり

② 部局のニーズに合わせて整理したデータを各部局担当者が簡単に利用し可視化できる仕組みづくり

③ 論文指標や研究評価に関する「誤解のない」知識提供と相談窓口づくり

成果と今後の展望

① 学内での認知度向上、ORCIDを使った名寄せ作業の効率化、データ精度の向上につながった

② 学内での共通したツール利用により問い合わせ内容が高度化したことで、戦略面でのサポートが強化できた

③ 研究評価や業績可視化への関心が高まり、部局横断的な連携や効率化も進んだ

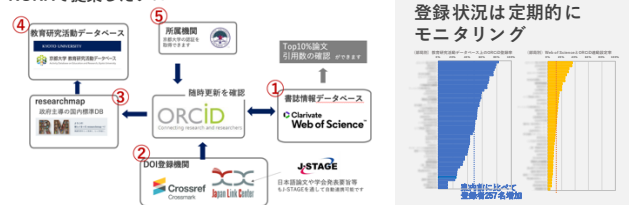
今後は部局での活用事例などのGood Practiceの蓄積・学内共有を進める

部局へのアンケート調査等を通して効果測定・改善を進める

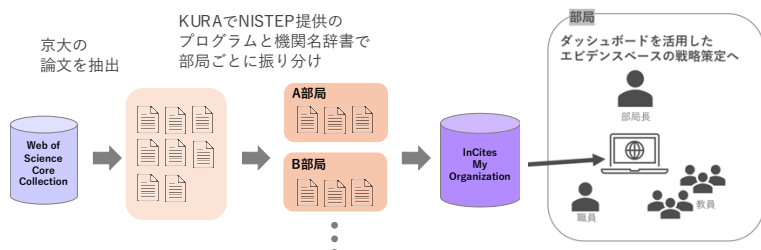
① ORCIDを使用した研究者の業績可視化支援

- ORCIDを軸とした業績整理手順についてKURAにて検討し、メリットとともに、全学会議やセミナーを通して周知
- 5部局では個別に相談があり直接全教員への案内も
- 教育研究活動データベースとの連携を推奨することでKURAでもORCID把握が可能になり名寄せへ活用

KURAで提案したフロー



② InCites My Organizationの導入



2024年度より、部局別論文リストをInCites MOを通して全学へ提供開始。マニュアルや説明動画も併せて作成し、利用方法や指標の注意点の解説なども行なった。IR担当者向けにアカウントを発行し、現在51名利用中。

部局からのリストの作り方や指標に関する相談が減少し、より戦略的に強みを見せるにはどうしたら良いか、などに問い合わせ内容が変化

MO利用者より

- 部局全体の研究動向をまとめられれば・・・と思っていたところだったので、このツールを使用できるようになったのはありがたい
- 引き続き、部局単位でのIR分析が部局で可能になるような基盤整備を進めてもらいたい
- 分析ツールによる分析でわかる部局の特徴・アピールポイントについて提案いただきたい
- 他部局での活用事例についてもっと知りたい

③ IRセミナー・情報共有会の開催

IRセミナーシリーズ

URAが講師としてツールの使い方やORCIDの解説などのセミナーを開催
質疑応答を長めに設け、利用者に寄り添う解説を意識し、録画は質疑応答も含めできるだけ公開している

- 第9回 部局における研究力分析-InCites My Organizationの活用
- 第8回 ORCIDを活用した業績整理と可視化-研究者プロフィールの連携でラクに業績アピールしよう
- 第7回 研究者のためのInCites Benchmarking活用説明会
- 第6回 世界大学ランキングの内と外：京都大学の立ち位置を考える
- 第5回 京都大学で『責任ある研究評価』を考える-研究評価改革最新情報から
- 第4回 効率的な研究業績整理のTips-ORCIDを活用しよう
- 第3回 本学KPIに対するIRのアプローチ-KPIの解説とその可視化の取り組み
- 第2回 論文業績分析ツール『InCites Benchmarking』利用説明会:部局の研究パフォーマンス評価とその活用方法
- 第1回 論文業績分析ツール『InCites Benchmarking』利用説明会:Top10%論文など研究業績の可視化

研究者や担当者がツールを利用するタイミングで開催



「責任ある研究評価」や「大学ランキング」など、指標に頼らない研究評価に関するテーマも企画

部局担当者を対象とした情報共有会

部局で報告書作成や評価を担当する職員を対象にクローズドな情報共有会を実施

- 報告書作成のための論文整理など、絞り込んだ状況や悩み事について、より詳細にアドバイス
- 部局からの事例共有も行うことでノウハウや知識の共有を進めた

研究者のニーズとセミナーの感想

- 引き続き、部局単位でのIR分析が部局で可能になるような基盤整備を進めてもらいたい (第9回)
- 事前に質問させて頂いたTOP10や国際共著の情報の整理のやり方について具体的にピンポイントで説明頂き、非常に参考になりました。 (第9回)
- 研究者プロフィールの管理の重要性や、色々なプロフィールでアカウントを作ればORCIDを元に紐づけで登録できることが分かった。研究者プロフィールの整理をしないといけないと思いつつ、なかなかやる時間取れなかったが、今回のセミナーできっかけをもらった。 (第8回)
- Top10論文は自分には縁ないものと思っていたが、決してそうでないことがわかった。 (第7回)
- ランキングの仕組みがわかった。目的と手段を履き違えないのと同じ様に、ランキングはレジュメーションとして捉え、本学自身も複数の指標を持つことが改めて大切だと感じた。 (第6回)
- 漠然と、京大は日本の大学の中では世界大学ランキングが高いとされている、とかランキングが下がった、というようなニュースは耳にしますが、大学としてそれをどう捉えているのかわかりやすく示していただいたので、理解・興味が深まりました。 (第6回)
- 研究評価に対する多様な考え方(各国の動きなど)が分かって面白かった。研究、研究者、大学、論文誌など評価の対象に対して、多様な評価の軸があって難しい話だとは思いますが、みながフェアに感じるような方向に進むといいと思います。 (第5回)



情報共有会の感想

- 〇〇研では論文の調査を先生方に任せきりにしていましたが、話提供から、事務サイドが主導で調査を行うことのメリットは大きいと感じました。大変参考になりました
- 他部局での取り組みの詳細や、KURAのサポートについて詳細にお聞きできたのが大変有意義でした
- 調査方法と工夫がたくさん知れて、可能性が広がった
- IR業務が立ち上がったばかりなので、他部局で事務職員がひとりどどのようにされているのが参考になった
- 「部局の重要性」、「部局での利用方法」が事務職員に浸透していない気がします。専門性が高すぎてちょっと遠い存在です。こういうデータが利用できますよ、こういったアピールに使えるんですよ、など教えるのを教えていただきたい

